

# V 学校だより 特別号

京都市立醍醐小学校 校長 松下 智祥

本校では、学校教育目標の実現を目指し、学校評価としてアンケートを行っています。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## アンケート【地域】



学校には、質問や相談しやすい雰囲気がある



子どもたちは、自分から進んであいさつをしている



学校だよりやホームページで学校の様子が伝わってくる



子どもたちは、交通ルールを守り、安全に気を付けて行動している



学校の雰囲気や情報発信に関しては9割以上の肯定的な回答をしていただいております。子どもたちのあいさつに関しては改善の余地があるようです。あいさつの習慣づけや意識づけについて、今後さらに力を入れていく必要があると考えられます。「交通ルールを守り、安全に気を付けて行動している」という項目では、多くの方が概ね肯定的に評価してくださっています。ただし、一部に不安の声も見られたため、今後も子どもたちの安全意識を高める取り組みを継続して行っていきます。

## アンケート【児童】

目標に向かってがんばって取り組んでいる。



自分にはよいところがあり、今の自分が好きだ。



人が困っているときは進んで助けている。



「ありがとう」や「ごめんなさい」が伝えられる。



学校に行くのは楽しい。



困りごとや不安があるときに先生に相談できる。



自分から進んで体を動かしている。



自分の住んでいる「醍醐のまち」が好きな。



将来の夢や目標(こんな人になりたい・できるようになりたい)をもっている。



自分から学習に向かっている。



自分の考えを伝えることができる。



自分から進んで家庭学習をしている。



自分から進んで読書をしている。



自分から進んであいさつをしている。



先生は私の良いところを認めてくれている。



## アンケート【保護者】

学校は、よりよい教育活動に向けて努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



子どもは、楽しく学校に通うことができる。



自分は、子どもたちの相談に乗れている。



わが子が、自分から進んで体を動かすような言葉がけをしたり、機会をもったりしている。



自分は、地域や社会の活動に参加できている。



わが子が、本をよく読むように声をかけたり、本をすすめたりしている。



保護者の皆様のアンケートからは、家庭での温かい教育が実践されている様子がうかがえます。特に、「ありがとう」などのあいさつを大切にしながら、子どもたちの自己肯定感を育むような日々の働きかけが行われている点は、非常に意義深いと感じています。「自分や人を大切にできるよう働きかけている」(98%)、「子ども自身のよさを積極的に伝えられている」(93%)という回答も多く、子どもの心を育む姿勢が見られます。一方、子どもの相談に乗ることや読書、地域参加の促進に課題を感じている方がおられるようです。

## グラフの見方

質問項目



そう思う

だいたいそう思う

あまり  
そう思わない

## アンケート【教職員】

自分は、学校教育目標の実現のために努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



自分は、子どもたちが楽しく学校に通うことができるように働きかけている。



自分は、子どもたちの相談に乗れている。



自分は、子どもたちが進んで体を動かすような言葉がけをしたり、機会をもったりしている。



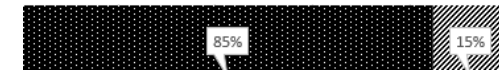
自分は、家庭や地域との連携を大切にしている。



自分は、子どもたちの読書習慣が定着するように働きかけている。



自分は、自分から子どもたちにあいさつできている。

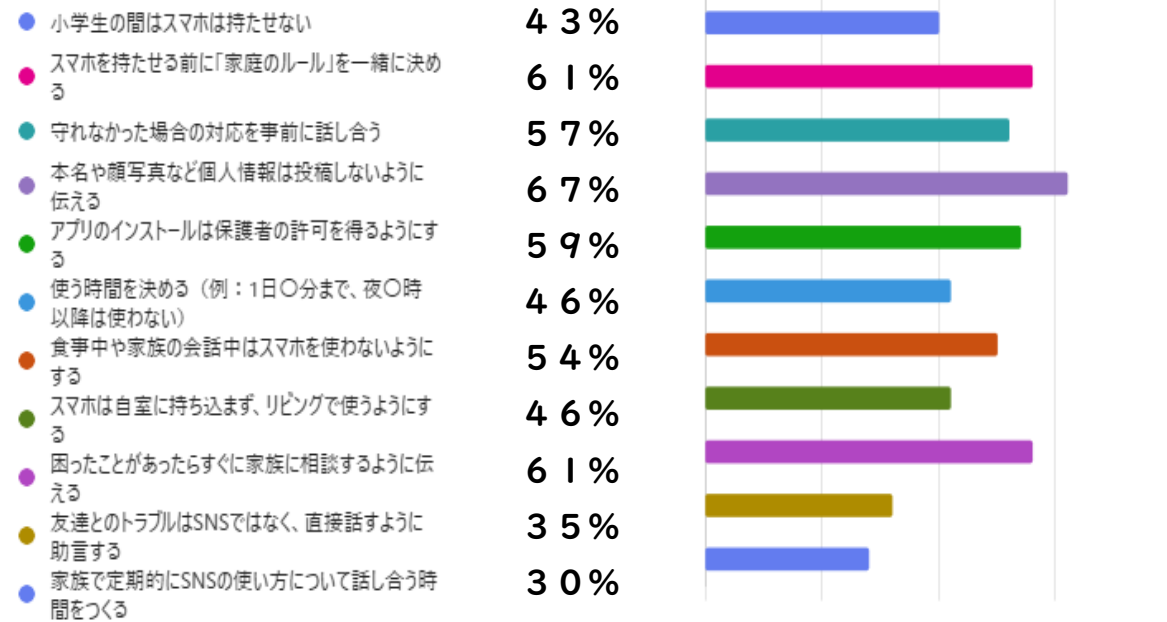


教職員アンケートからは、「ありがとう」等の声かけ、自発的なあいさつ、子どもたちが自分や人を大切にする働きかけなど、人間教育の根幹をなすところは、共通理解を深め、どの教職員も高いレベルで意識できているようです。その一方で、「体を動かす働きかけ」や「読書活動の推進」といった点においては、改善の余地があることも見えてきました。子どもたちの学びが多様化する現代において、これらの課題にもチームとして一丸となって取り組み、教育の質をさらに高めていきたいと考えています。

今回の児童アンケートから、今年度本校が大事にしている「ありがとうを伝える」「困っている人を助ける」といった項目では95%以上の児童が肯定的に回答しており、思いやりの心や高い社会性が育まれていることがわかります。また、多くの子どもたちが自分の住む「醍醐のまち」を好きだと感じ、地域への愛着を持っている点も大変喜ばしい結果です。さらに、多くの子どもたちが将来の夢や目標を持ち、先生から自分の良さを認められていると感じています。これらの前向きな姿勢や自己肯定感は、醍醐の子どもたちの大きな強みと言えます。一方で、「先生に相談できる」と回答した児童は8割程度に留まっており、児童が悩みや困りごとを気軽に話せる関係づくりを今後さらに進めていきたいです。



## 醍醐小学校保護者アンケート「SNS との付き合い方」より（令和7年7月）



### 親子の対話と方針 【保護者の方の声から】

「制限時間などは「今日だけ、特別！」を作らない。子どもとルールを作ったなら、親もブレずに守りぬいたほうがいい。」

### 親子の対話と方針

「スマホをなぜ持たすのか親側がしっかり目的意識をもって、子供に危険性をちゃんと伝え、必要に応じて使用履歴をチェックするなど、親の意識が大切。」

### 時間管理の工夫 【保護者の方の声から】

「YouTubeは電車の移動時間のみ。食べ物を粗末にするYouTube・番組は全て禁止にしています。」

### 時間管理の工夫

「学習時計が時間管理に役立っています。宿題も細かく時間を区切りタイマーを鳴らすことで集中力が続くようです。」

## 醍醐小学校の子どもたちのスマホ利用とルール

### ～イマドキの SNS との付き合い方～

スマホを子どもに「買い与えるとき」は、親（大人）が主導権を持てる数少ないタイミングです。だからこそ、その瞬間を逃さず、ルールを先に決めておくというのはどうでしょうか。問題が起きてからルールを決めようとしても、すでに子どもが自由に使い慣れてしまっている場合、ルールの導入は何倍も難しくなります。親子間の信頼関係にも影響を及ぼしかねません。SNS との向き合い方は、学校でも発達段階に応じて、繰り返し伝えていきたいと思います。

### ✳️ ルール作りの、さらにその先へ

スマホや SNS に関するルールは、子どもを守るための大切な手段です。しかし、ルールだけでは十分とは言えません。大切なのは、デジタル社会を生き抜く力を育てることです。

### 🎯 目的の共有

「連絡のため」「学習のため」など、スマホを持つ目的を親子で共有することで、スマホは「遊び道具」ではなく「目的達成のツール」として認識されます。

### ⚠️ リスク教育の重要性

危険をただ禁止するのではなく、「なぜ危ないのか」を具体的に伝えることで、子ども自身がリスクを判断し、避ける力を育てます。

### 👁️ 見守る姿勢

使用履歴の確認も「監視」ではなく「安全のための見守り」として、子どもと合意の上で行えば、いざという時のセーフティネットになります。

### 機能・物理的な制限 【保護者の方の声から】

「普段のスマホの置き場所は、すぐ手にとれる位置に置かないようにしています。」

### 機能・物理的な制限

「小学生の間はゲーム（時間を決めて）と家族間の連絡手段のためのもので、友だちやSNS のやり取りは行わない。」

### 機能・物理的な制限

「スマホを持たせていますが、LINEにはつなげず、時間もネットも強めに制限をかけているので、親との連絡と場所確認のみで使っています。」

### 機能・物理的な制限

「そもそも保存容量が小さいスマホを渡し、ギガも最小にして、連絡手段でしか使えないようにしておけば、いらぬ心配をしなくて済む。」

### 🔧 目指すのは「自分でコントロールする力」ですが・・・

SNS やゲームは、世界中の一流のプロたちが、「いかに長く人の注意を引きつけるか」を考え抜き、莫大な知識と技術を注ぎ込んで創り上げたものです。そんな強力なコンテンツを相手に、「自分で時間をコントロールしなさい」と子どもたちだけに任せるのは、そもそも無理があるのかもしれない。だからこそ、**私たち大人の伴走が必要**です。一方的に禁止するのではなく、その楽しさを認め、共感しながら、「今はここまで」と優しく手を引いてあげる。その役割を、社会全体で担っていく必要があるのではないのでしょうか。

- ・ 脳の発達段階： ノースカロライナ大学などが行った研究では 10 代の脳は、報酬や快楽を求める部分が活発になる一方、衝動を抑える前頭前野はまだ成熟していません。そのため、SNS が与える「いいね！」などの**瞬間的な報酬に非常に弱く**、自力で利用を中断することが脳科学的に困難だということです。
- ・ 心理学的設計： SNS は、「変則強化スケジュール」という心理学的手法（いつ報酬がもらえるか分からないから、つい続けてしまう）を用いて設計されており、これは**依存性が非常に高い**ことが知られています。

### 🕒 「心の休憩時間」をルールでつくる

スマホを常に手元に置く状態から、意図的に解放してあげましょう。これは「禁止」ではなく、**脳と心を休ませるための「積極的な休憩」**です。

（１）寝るとき：寝室に持ち込まない （２）食事中：テーブルに置かない （３）勉強中：引き出しにしまう

こうした**シンプルなルール**でも、子どもは「今、目の前のこと」に集中する時間を取り戻せます。